

第13講 レジメと論文の書き方

(1) レジメの書き方

発表日時を記入（レジメの右上）
発表テーマ（レジメの左側あるいは中央）
発表者名（学籍番号と氏名）又は（所属）
問題提起
先行研究紹介
本論（3～4部構成）
結論（または展望）
参考文献表

(2) 論文の書き方

論文の表題（横書きの場合、中央ないしは左端）
執筆者氏名（学籍番号）（横書きの場合、中央ないし右端）
問題提起（「はじめに」は使わない）

何を論文で論じるのかを明確に提示する。

先行研究紹介または学説史

論文で考察を進めていく学問的な位置または研究状況を提示する。

本文

通常、3～4章仕立て。

起承転結を明確に。

引用文はかぎカッコでくくる

引用文の後ろに出典を明記しカッコでくくる。または注に記載する。

結論（「おわりに」ではなく）

結論のない学術論文はない。

論文は単なるエッセーではない。

何を問題とし、どのように論を展開し、どのような結論を得たのかを明示する。

注の挿入の仕方

1. ワード画面の「参考資料」をクリックします。
2. 参考資料の「脚注の挿入」をクリックします。
3. 脚注1に必要な情報を記入します。
4. 後はこの手順を繰り返していきます。

注の記載

出典箇所や言及箇所 ←第三者が再確認できるように必要。

本文に記載できなかった考察やデータ ←本文の統一性を守るため。

最初は脚注機能を使って下書きした方が便利

最後に文末注に一括転換（参考資料>脚注>文末脚注（E）>変換）

注番号の挿入

注は文末の語と句読点の間に入れる。

「・・・見解は一致していない⁷。本稿は・・・」

句読点の後ろに注を入れるときは次の文との間に1字分以上空ける。

「・・・見解は一致していない。7 (1字分以上空ける) 本稿は・・・」

前の注に出ているのと同じ文献を次の注でも連続して書く場合。

日本人著者の場合：同書（または同論文）、～頁（頁が異なるとき）。

外国人著者の場合：Ibid, p...（頁数が異なるとき）。

いくつか前の注に出ている文献を再び取り上げる場合。

日本人著者の場合：著者の名字、前掲書（または前掲論文）、頁数。

外国人著者の場合：著者の名字、op. cit. p.～。

最後に参考文献表を付けます。

日本人著者なら名字のアイウエオ順に。

外国人著者なら名字のabcd順に。

同一著者の文献は刊行年順に。

同一著者の名前は

日本人なら同または一で

外国人なら Idem または Id. または Do または一を使います。

練習問題 1 次の文をワードで打ち、練習問題の指示に従って答えを完成させなさい。

「前三七五年の平和はスパルタやアテーナイの継戦能力の限界を露呈していた。スパルタは海上で相次ぐ敗戦を被っており、陸上においてもボイオーティアに侵攻できなくなっていたばかりかテーバイの攻勢を前にしてボイオーティアの同盟諸国を支えきれなくなっており、その地上部隊はテギュラにおいて一敗地にまみれていた。スパルタの戦争指導に対する同盟諸国の不信も募っていた。」

(1) 最初の文の最後に K.-W. Welwei, *Sparta: Aufstieg und Niedergang einer antiken Grossmacht*, Stuttgart, 2004, 297. を脚注に入れてください

(2) 二番目の文の最初の文節の最後に オレオスの失陥：Xen. *Hell.* 5. 4. 57; Diod. 15. 34. 3; ナクソスの海戦：Xen. *Hell.* 5. 4. 61; Diod. 15. 34. 4-6; アリュゼイアの海戦：Xen. *Hell.* 5. 4. 65; Diod. 15. 36. 5-6. を脚注に入れてください。

(3) 2番目の文の2番目の文節の最後に「フォイビダスの戦死：Xen. *Hell.* 5. 4. 45.」を入れてください。

(4) 二番目の文の最後の文節末尾に Xen. *Hell.* 6. 1. 1; Diod. 15. 37. 1-2; Plut. *Pelop.* 16f. を脚注に入れてください。

(5) 最後の文の文末に「クレオンプロトスに対する不信：Xen. *Hell.* 5. 4. 60. malakia (無気力) と指摘される同盟諸国の批判は明らかにクレオンプロトスに向けられていた。」を入れてください。

練習問題 2 次の文をワードで打ち、練習問題の指示に従って答えを完成させなさい。

「クセノフォンは戦争再発に至る一連の事件の初めにティモテオスによるザキュントス人亡命者の上陸事件を記すことによって、ザキュントスへのアテーナイの干渉が平和破綻の原因になったと位置づけている⁵²。」

(1) 注 52 は注 51 と同じ Xen. *Hell.* 6. 2. 2. を注記する。(参考資料>脚注>番号書式>開始番号>52>適用)

練習問題 3 次の文をワードで打ち、練習問題の指示に従って答えを完成させなさい。

「さらにコークウェルはスパルタがムナシッポスをケルキュラに派遣したことも戦争再発にはならないと主張する。」

(1) 文末に6つ前の注(注12)に記載されていた文献 G. L. Cawkwell, "Notes on the Peace of 375/4," *Hist.* 12, 1963, pp.84-95 をこの文末に注表記(注番号18)します。(参考資料>脚注>番号書式>開始番号>18>適用)